

澤上篤人

さわかみ投信社長

岡本和久

I-Oウェルス・アドバイザーズ社長

自分たちで考えて 資産を形成していく

——澤上さんがさわかみ投信を作って七年が経ちます。この間、投資の在り方、基本をいろいろな場所で述べていますが、貯蓄から投資へという流れの中で、この投資の基本とは何でしょうか。

澤上 そこがまず問題で、要するに突然、投資の仕方と来てしまう。今までは日本では、投資や運用を何も考えなくてよかったんです。

これまでは国の政策に向かってみんなが頑張ろう、とにかく豊かになろう、そういう時代だったわけです。経済がよくなってきた、みんなが豊かになってきますと、国が降りて、みんな自分たちで考えようよと。ところが日本は成功体験に酔っぱらう国ですから放そうとしないわけです、既得権益も含めて。

——ただ現実が許さないと。例えば財政赤字、年金の問題、あるいはグローバル化とかがうる

さくなってきた状態、突然、貯蓄から投資になってきたんです。国全体が運用とか、自分でものを考えてやることに慣れていない。まだ準備できていないですよ。

——その中でさわかみ投信をやってきたわけですが、手応えはどうですか。

澤上 もうすごいですよ。何でかという、三段階ありまして、最初は澤上さん、なんだかんだ言っても日本は国がやってくれるし、今までの成功に対して信頼があるから離れる気がないと。そのままいいというのが第一段階。

第二段階では、「ウーンだめかなあ」という意識が出て、頭ではわかるけれども行動には……という感じですよ。

第三段階はこの一、二年ぐらいで、漸く「やっぱやらなくてはならない」というのが一部に出てきました。

——政治の世界も同じで、宮崎の東国原英夫知事などが出てきましたね。

澤上 そうですね。政治で一番大事なのは、十年、二十年先の日本のあるべき姿、方向を打ち出す役割です、本来は。

ところが誰一人、何も言っていない。政治家が出せないのだから普通の人は無理ですよ。

——岡本さんも視点は同じだと思いますが、現状をどう見

岡本 私も澤上さんと基本的認識は全く一緒で、今までは自分の将来を考えないで済んだわけですね。国が何とかしてくれる、会社が何とかしてくれると。それが今、明らかに変わってきて、でも一方で準備が全然できていない状態で、投資といったとき、株というのは競馬、競輪、パチンコ、マージャンに続いて……みたいな、売ったり買ったりして儲けるものだと、ほとんどすべての国民はそういうふう

に思ってしまった。でも、実は株式投資というのは、長い時間をかけて資産を形成していく重要な側面があるのです。今、それが非常に必要と